

- 1 課題名 漁場効果調査
- 2 区分 県単
- 3 期間 平成6年度～
- 4 担当 企画情報部(向野幹生)
- 5 目的

水産基盤整備事業に係る事業評価および今後の事業推進に資するため、魚礁漁場における漁獲量等の漁場効果を明らかにする。

6 成果の要約

1) 試験方法

(1) 熊野灘地区中層浮魚礁(白浜町～太地町沖合)

調査対象の中層浮魚礁は、I礁(白浜町市江崎沖)、SU礁(すさみ町江須崎沖)、S礁(串本町潮岬沖)、KU礁(串本町樫野崎沖)、K礁(太地町樫取崎沖)の合計5カ所で(図1)、和歌山南漁協(本所・すさみ支所)、和歌山東漁協(本所・古座支所・浦神支所)と宇久井漁協に所属する曳縄釣漁業者14隻により標本船調査を実施した。調査期間は、曳縄釣漁業が最も盛期となる3～5月の春漁を主体とした。なお、調査は4月～翌年3月(6～12月を除く)まで周年にわたって実施しているが、結果については暦年で取りまとめた。

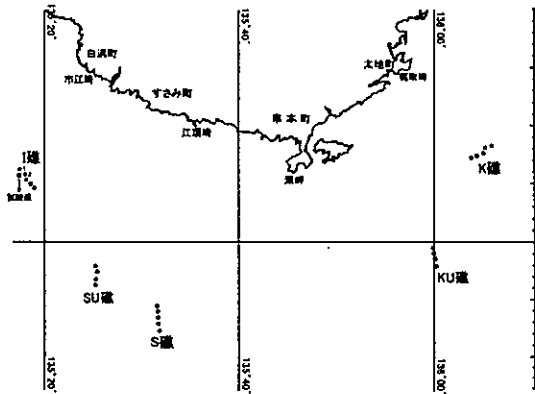


図1 調査地点

(2) 御坊地区大型魚礁(御坊市名田町沖合)

御坊市名田町沖合へH13年度に設置された大型魚礁を対象として、効果調査を実施した。調査は、紀州日高漁協本所に所属し、対象魚礁を利用している漁業者により標本船調査を実施した。

(3) 日置地区大型魚礁(白浜町日置沖合)

白浜町日置沖合へH20年度に設置された大型魚礁を対象として、効果調査を実施した。調査は、和歌山南漁協日置支所の職員が市場に水揚げした漁業者の操業場所を聞き取り、対象魚礁で操業した漁船の水揚げデータを収集した。

2) 成果の概要

(1) 熊野灘地区中層浮魚礁(白浜町～太地町沖合)

標本船は、延べ823隻操業し、カツオ48.1トン、その他(ビンナガやキハダ他)6.8トンを漁獲した。このうち中

層浮魚礁での利用延べ隻数と漁獲状況を表1に示す。中層浮魚礁では、延べ75隻操業し、カツオが1.2トン、その他が0.4トン漁獲された。

表1 中層浮魚礁の利用延べ隻数と各魚種の漁獲量

利用魚礁域	利用延べ隻数	カツオ	その他
I礁	7隻	84kg	7kg
SU礁	9隻	209kg	52kg
S礁	11隻	144kg	87kg
KU礁	28隻	369kg	108kg
K礁	20隻	414kg	157kg

この結果をもとに、漁協別標本船での漁獲率(中層浮魚礁での漁獲量/全漁獲量)から推定した、漁協別の中層浮魚礁での漁獲量を表2に示す。中層浮魚礁全体では、カツオが17.6トン漁獲されたことから、調査期間中の3漁協全体(1,023.5トン)に占める中層浮魚礁でのカツオの漁獲率は1.7%となった。

表2 中層浮魚礁における推定漁獲量

利用魚礁域	利用漁協・支所名	カツオ	その他
I礁	和歌山南漁協本所・すさみ支所	876kg	56kg
SU礁	和歌山南漁協本所・すさみ支所	2,407kg	638kg
S礁	和歌山南漁協本所・すさみ支所	1,662kg	1,065kg
KU礁	和歌山東漁協本所・古座・浦神支所 宇久井漁協	8,729kg	2,094kg
K礁	和歌山東漁協本所・古座・浦神支所 宇久井漁協	3,910kg	1,981kg

(2) 御坊地区大型魚礁(御坊市名田町沖合)

大型魚礁は、5～6月を中心に利用され、イサキが1.5トン(うち遊漁が0.9トン)漁獲された。その他にゴマサバ50尾、マアジ20尾、カツオ32尾が漁獲された。

(3) 日置地区大型魚礁(白浜町日置沖合)

大型魚礁では、4月にマダイ1.0トン、5月にイサキ0.9トン、マダイ0.2トン、6月にイサキ1.7トンの水揚げがあった。年間を通じては、イサキが3.3トン、マダイが1.9トン、その他魚種(カンパチ、ブリ等)が0.7トン水揚げされ、一本釣の出漁隻数1,629隻のうち781隻(47.9%)の利用があった。

7 成果の取り扱い

1) 成果の普及

これまでの成果は、水産基盤整備事業に取り入れられた。

2) 成果の発表

平成22年度漁場効果調査報告書